

A small, cute mascot character with a pink flower on its head, wearing a black suit and green shoes, holding a small stick. The word "JOTO" is written on its forehead.

城東区マスコットキャラクター「コスモちゃん」

目 次

●区運営方針とは	1
●城東区ってこんなまち	2
●区運営方針のあらまし	
城東区の目標・役割	5
重点的に取り組む主な経営課題	6
●主な経営課題について	
経営課題1 人と人がつながり、城東区を誇りに思える	
コミュニティ豊かなまちに	8
戦略1-1 タテ・ヨコ・ナナメでつながるまちづくり	10
1-1-1 地域活動協議会に対する支援	
1-1-2 生涯学習及びスポーツ等を通じたコミュニティづくり	
戦略1-2 区民が生き生きと活躍している魅力あるまちづくり ...	12
1-2-1 城東区ゆめ～まち～未来会議・アイラブ城北川	
実行委員会と協働したまちづくり	
1-2-2 音楽にあふれるまちづくり	
1-2-3 花と緑と人を育むまちづくり	
経営課題2 地域で支えあう安全で安心なまちに	14
戦略2-1 自助・共助を基本とした災害に強いまちづくり ...	17
2-1-1 防災力の向上	
2-1-2 避難行動要支援者情報の共有	
戦略2-2 犯罪の少ない安全で安心なまちづくり	19
2-2-1 地域コミュニティによる防犯力の向上	
2-2-2 犯罪抑止力等の向上	
経営課題3 安心して子育てができ、心豊かに力強く	
未来を切り拓く子どもを育むまちづくり	21
戦略3-1 子育て世帯が安心して、生み育て、	
働くことができるまちへ	24
3-1-1 子育て支援事業の推進	
3-1-2 保育事業の充実	
戦略3-2 子どもたちが自らの可能性を追求できるまちづくり	26
3-2-1 子どもたちの基礎学力や体力の向上	
3-2-2 不登校など課題を有する児童生徒に対する支援	

経営課題4 地域が支えあい、住みなれた場所で

安心して暮らせるまちへ 28

戦略4-1 高齢者、障がい者、子どもを地域が

互いに見守り、支えあうまちへ 32

4-1-1 地域福祉支援事業

4-1-2 地域における要援護者の見守りネットワーク強化事業

戦略4-2 高齢者が住みなれた地域で

安心して暮らし続けるまちへ 34

4-2-1 医療・介護関係機関の連携推進

4-2-2 区民への地域包括ケアについての普及啓発

経営課題5 区民の皆さんに信頼される区役所づくり 36

戦略5-1 コンプライアンスの確保 38

5-1-1 職員のコンプライアンス意識の向上

戦略5-2 窓口サービスの向上 39

5-2-1 窓口環境の改善

5-2-2 接遇能力の向上

戦略5-3 区民の皆さんとすすめる区政運営 41

5-3-1 区民との対話や協働による区政運営

5-3-2 区民ニーズの的確な把握と積極的な情報発信

●「令和2年度以降の市政改革計画」に基づく取組等 43

●令和2年度予算事業一覧表 44

●城東区役所の業務一覧 61



区運営方針とは…

全市的な方針を踏まえ、区における「施策の選択と集中」の全体像を示す方針として毎年度策定しているものであり、区の目標像・使命、経営課題とともに課題解決のための事業戦略（施策レベル）・具体的取組（事務事業レベル）を示しています。

なお、区運営方針については、自律した自治体型区政運営の推進に向け、地域としての区の将来像や施策展開の方向性等をとりまとめた「区将来ビジョン」の単年度ごとのアクションプランになります。

区運営方針の構成

区運営方針のあらまし …「施策の選択と集中の全体像（概要）」

所属の目標や使命を示し、何について特に優先して取り組んでいくのかなど、区長としての「選択と集中の方針」を記載しています。

施策の集中の方針 …「重点的に取り組む主な経営課題」

重点的に取り組むそれぞれの経営課題に対する戦略や具体的な取組の内容を記載しています。

施策の選択の方針 …「『令和2年度以降の市政改革計画』に基づく取組等」

限られた財源のもと、施策や事業についてどのように見直しや再構築を行っていくのかについて記載しています。

区運営方針策定の年間スケジュール

9～11月頃

運営方針（素案）の具体的な取組内容や業績目標について、区政会議委員へ意見聴取

運営方針（素案）の公表

1～2月頃

運営方針（案）の作成作業

2月頃

運営方針（案）の公表

3月

市会での審議、議論を踏まえ必要な修正

4月上旬

運営方針の確定・公表

城東区ってこんなまち

★城東区の概要★

城東区は、第二次大戦中の昭和18年4月、大阪市の22区制実施にともなう7増区の1区として東成区の北部地域と旭区の南部地域を併せて分区独立し、誕生しました。大阪城の東に位置し、地勢的には東部の低湿地帯である旧大和川流域に属し、標高1～2mと区域全般に低く平坦で、東西に寝屋川と第二寝屋川が流れ、南北に城北川、平野川、平野川分水路が通じるなど、河川が多く、他区にない特徴を示しています。

鉄道交通網では地下鉄谷町線・長堀鶴見緑地線・今里筋線・中央線、JR学研都市線、京阪電鉄の各鉄道が区内を走っています。また、平成31年3月には、JRおおさか東線が開業するなど、公共交通機関の充実により利便性の一層の向上が見込まれています。

道路交通網では東西方向に古市清水線（国道163号）、東野田茨田線（鶴見通り）、片町徳庵線（城見通り）、中央大通り。南北方向には、新庄大和川線、森小路大和川線、豊里矢田線〈一部未完成〉、区内中央部を力ギ型に国道1号が走るなど都心へのアクセスも良好な交通至便の地です。

当区は明治時代から鉄道が開通し、陸軍砲兵工廠や紡績工場ができ、その後、次第に関連工場が集まり、また寝屋川や第二寝屋川、城北川沿いには金属・機械・化学関係の工場が集中するようになりました。また、区内南部には衣料・縫製関係の事業所も多く、生野区、東成区、鶴見区とともに市内東部の工業地帯を形成してきました。

現在の当区は、区内北東部の関目・葦地区が戦前に行われた土地区画整理事業により緑の多い整然とした街区となり、また西南部の森之宮地区では、かつての陸軍砲兵工廠跡地にはJR・地下鉄の車庫や高層住宅団地が、さらに嶋野地区も再開発により新たな高層住宅群が出現するなど、街並みは大きな変貌をとげてきました。そして近年では区内各地区で工場等の転出跡地などに高層集合住宅や大規模小売店が相次いで建設されるなど、生活・交通至便な住宅地へと変化しています。

今後も、公共交通機関の一層の充実、水辺環境整備、緑化の推進などによって、職・住のバランスのとれた区としての発展に大きな期待が集まっています。

★城東区のマスコットキャラクター★ 「コスモちゃん」



★プロフィール★

平成25年4月に城東区制70周年を記念して誕生しました。城東区の花「コスモス」を頭に「モクレン」を胸にかたどり、青色の服は区内を流れる河川を表現し、城東区の魅力をてんこ盛に表現しています。

★城東区の花★

城東区では、平成2年の「国際花と緑の博覧会」の開催に向け、未永く区民のみなさんに親しまれ愛される「区の花」を定めるため、区内全校の小学生を始め広く一般公募を行い、その結果、昭和63年10月29日、1万6千31通のうちともに最多応募数により「モクレン」「コスモス」が制定されました。

モクレンは一億年以上も前から生息し、早春のこすえにふくらむつぼみは春への希望を表し、コスモスは日本の秋を代表する花で別名秋桜とも言います。花言葉はモクレンが自然への愛と恩恵、コスモスが調和と真心、城東区民の地域、近隣の愛と協調を象徴しています。

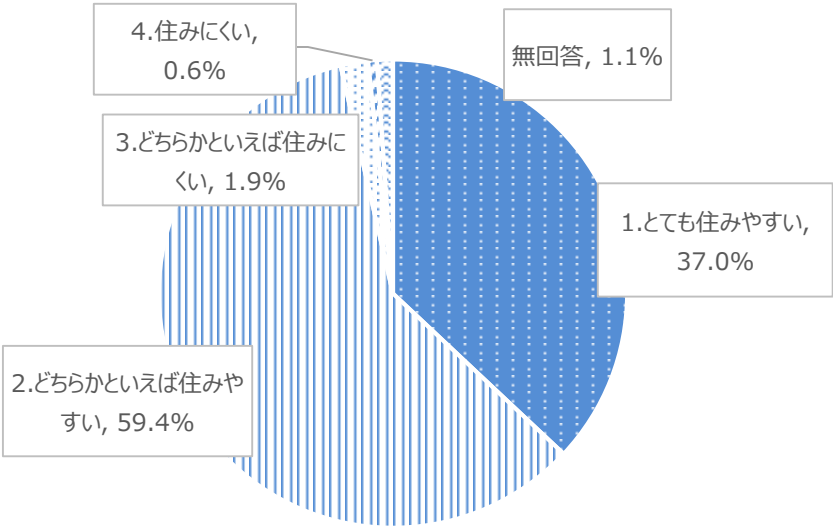
★数字で見る城東区★

	区の詳細データ	24区内の ランキング	市のデータ	出典
面積	8.38km ²	12位	225.30km ²	令和2年2月1日推計人口
人口	167,958人	4位	2,743,599人	令和2年2月1日推計人口
世帯数	80,931世帯	5位	1,442,033世帯	令和2年2月1日推計人口
人口密度	20,043人／km ²	1位	12,178人／km ²	令和2年2月1日推計人口
外国人人口	5,488人	10位	143,285人	令和元年9月末市民局資料
事業所数	5,979事業所	10位	190,629事業所	平成26年経済センサスー基礎調査

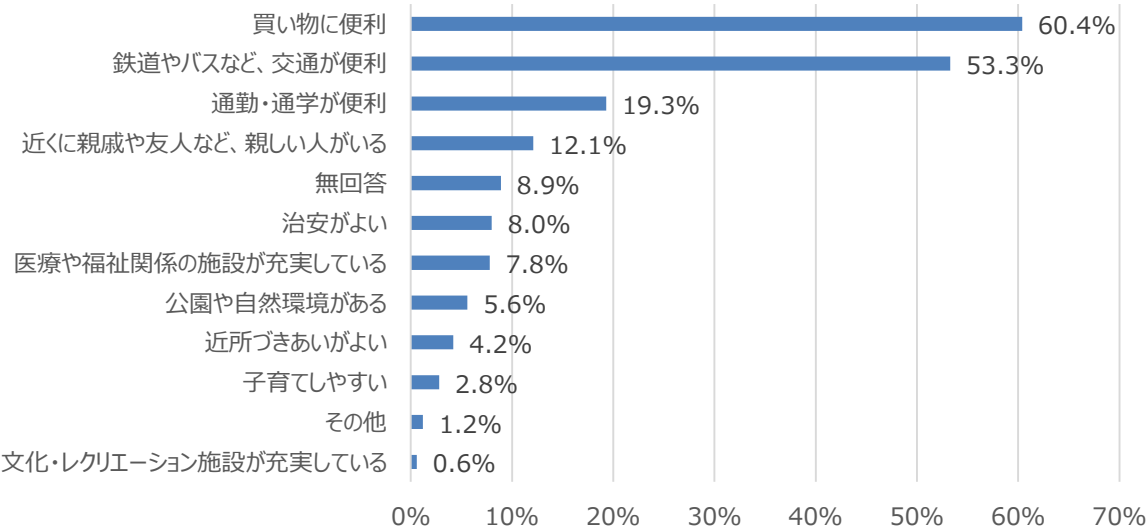
★各種データ★

平成30年度区民アンケート結果（抜粋）

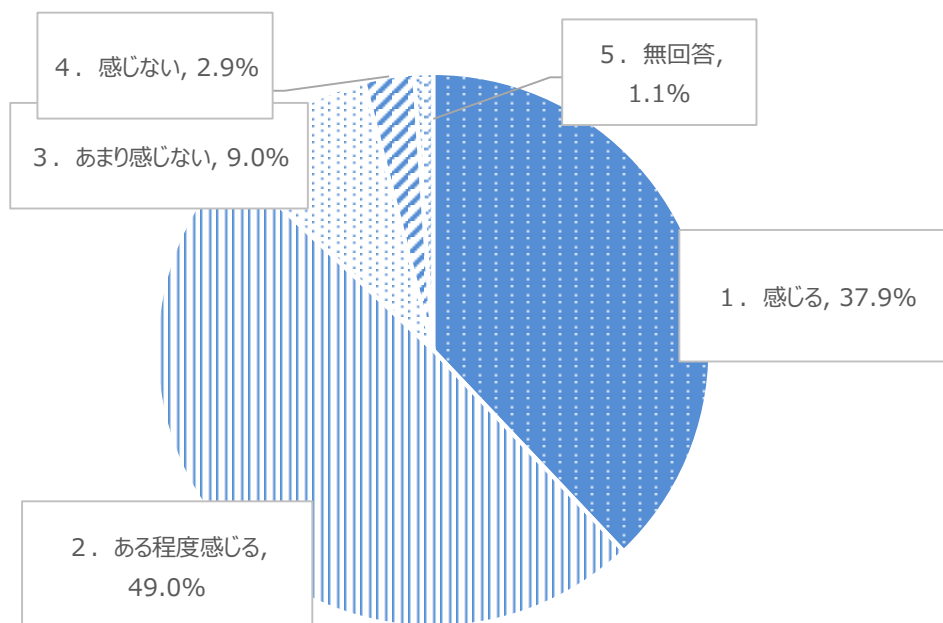
問1 城東区はあなたにとって住みやすいまちですか。



問2 住みやすいと感じる理由を2つまでお選びください。
(問1. で「1. とても住みやすい」又は「2. どちらかといえば住みやすい」と答えた方【503名】にお聞きしました。)

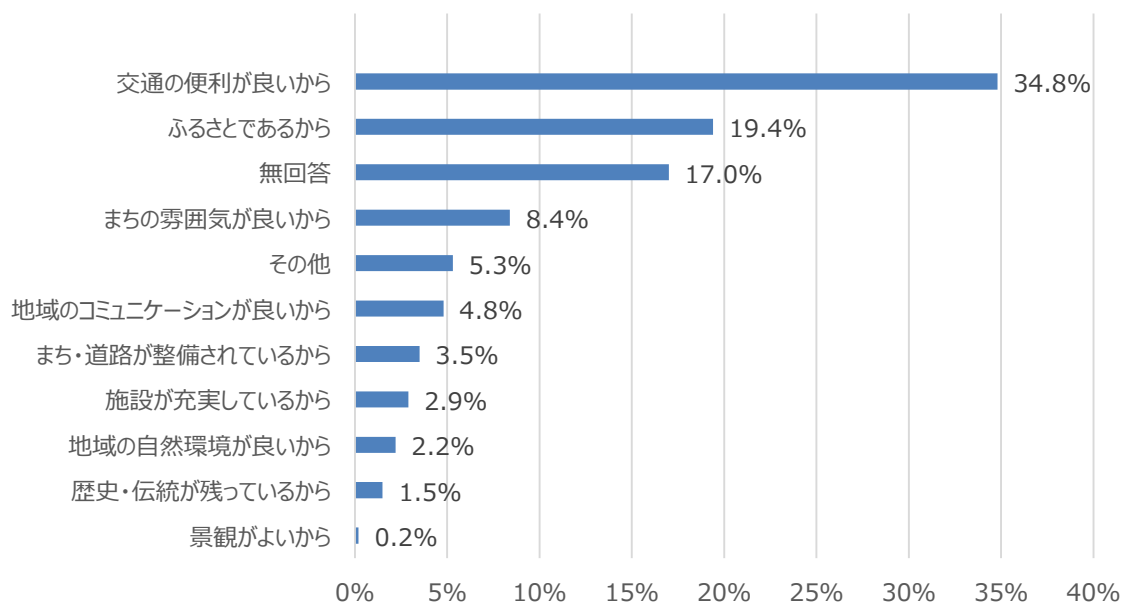


問3 城東区に愛着を感じますか。



問4 愛着を感じる主な理由をお選びください。

(問3. で「1. 感じる」又は「2. ある程度感じる」と答えた方【454名】にお聞きしました。)



★ 城東区がめざすこと ★

城東区に住んでよかったと思えるまち
～人が輝き活気にあふれ、まちに愛着があること～

- 1 人と人がふれあい、きずなを大切にし、地域全体で支え合う「温かいまち」
- 2 住民のみなさん一人ひとりが考え、つくりあげる「住民主体のまち」
- 3 誰もが穏やかに日々を過ごすことができる「安心なまち」

★ 城東区が担う役割 ★

**区民とともに、人と人との絆を大切にし、
城東区に住んでよかったと思えるまちづくり**

- 1 地域の住民同士が力を合わせ、豊かなコミュニティを築いていること
- 2 災害に強く、犯罪の少ないまちであること
- 3 安心して子育てができ、子どもを育めるまちであること
- 4 誰もが健康で、支援を必要とする人を地域で支えるまちであること
- 5 区役所が信頼できることであること

★ 令和2年度 区運営の基本的な考え方★

城東区は、人口密度が大阪市で最も高く、多くの方に「住みやすい」と評価いただくと、「住のまち」として発展しており、引き続き、豊かなコミュニティを築き、まちへの愛着や誇りを感じる、「住んでよかったと思えるまちづくり」をめざして取り組みます。

地域においては、各地域活動協議会を中心とした小学校各校下のコミュニティづくりを重点的に支援するとともに、住民同士の「つながり」や「きずな」の醸成のため、様々な活動主体が互いに連携した、「タテ・ヨコ・ナナメでつながるまちづくり」と「区民が生き生きと活躍している魅力あるまちづくり」に取り組みます。

防災、防犯の分野では、地域ごとの防災計画および防災マップの作成支援や地域での防災訓練の充実、備蓄物資の増強など避難所の機能強化、防犯カメラの設置など、地域防災力、及び地域防犯力の向上に取り組みます。

子育て支援・教育の取組としては、子育てに関する情報発信や児童虐待対応の強化、保育事業の充実を図るとともに、基礎学力・体力の向上・学習習慣の形成、不登校の子どもの居場所づくりにより、豊かな心、確かな学力を育みます。

地域福祉・健康づくりの分野では、地域福祉支援事業や地域包括ケアシステムの充実等により、地域で支えあうまちづくりに取り組みます。

また、区政運営においては、職員のコンプライアンスの意識の向上と窓口環境の改善、情報発信の充実等に取り組みます。

★ 重点的に取り組む主な経営課題 ★

経営課題の概要	主な戦略や取組
【経営課題１】 人と人がつながり、城東区を誇りに思えるコミュニティ豊かなまちに さまざまな活動主体が互いに連携して活動し、コミュニティが豊かになっている	【戦略１－１】タテ・ヨコ・ナナメでつながるまちづくり 【１－１－１】地域活動協議会に対する支援 [予算額 58,072千円]
【経営課題２】 地域で支えあう安全で安心なまちに ・災害に対する備えが充実している ・住民同士が助けあう体制が整っている ・区民が安全で、安心に暮らせる	【戦略２－１】自助・共助を基本とした災害に強いまちづくり 【２－１－１】防災力の向上 [予算額 25,327千円] 【戦略２－２】犯罪の少ない安全で安心なまちづくり 【２－２－２】犯罪抑止力等の向上 [予算額 5,120千円]
【経営課題３】 安心して子育てができ、心豊かに力強く未来を切り拓く子どもを育むまちづくり ・保育所、幼稚園などが充実し、安心して働くことができる ・子どもたちが自らの可能性を追求できるまちづくり	【戦略３－１】子育て世帯が安心して、生み育て、働くことができるまちへ 【３－１－１】子育て支援事業の推進 [予算額 34,494千円] 【戦略３－２】子どもたちが自らの可能性を追求できるまちづくり 【３－２－１】子どもたちの基礎学力や体力の向上 [予算額 2,093千円]
【経営課題４】 地域が支えあい、住みなれた場所で安心して暮らせるまちへ ・障がいのある方、高齢者や子どもを地域のみんなが互いに見守り、支えあう ・地域で暮らす高齢者に医療・介護等の必要な支援を切れ目なく提供する	【戦略４－１】高齢者、障がい者、子どもを地域が互いに見守り、支えあうまちへ 【４－１－１】地域福祉支援事業 [予算額 23,160千円] 【戦略４－２】高齢者が住みなれた地域で安心して暮らし続けるまちへ 【４－２－１】医療・介護関係機関の連携推進 [予算額 － 千円]
【経営課題５】 区民の皆さんに信頼される区役所づくり ・区民が利用しやすい便利で親切的な区役所 ・多様な区民の意見やニーズを区政に反映し、地域実情に応じた区政運営が行われており、区民がそれを実感している状態	【戦略５－１】コンプライアンスの確保 【５－１－１】職員のコンプライアンス意識の向上 [予算額 － 千円] 【戦略５－３】区民の皆さんとすすめる区政運営 【５－３－１】区民との対話や協働による区政運営 [予算額 550千円]

次ページ以降の、各経営課題・戦略・具体的取組について、
区政会議の所管部会を下記の記号で表しています。

地域福祉部会 **福**

こども・教育部会 **こ**

まちづくり部会 **ま**

エスディーゼース SDGsについて



SDGs（エスディーゼース）とは、「持続可能な開発目標」という意味です。2030年までに達成すべき、開発が進んだ国もまだ途中の国も、国も地方も、会社も学校も、大人もこどもも、あらゆる垣根を超えて協力し、より良い未来をつくろうと国際連合で決まった17の目標（ゴール）です。

本市におけるSDGsの達成に向けた取組の一環として、区においてもSDGsの視点から施策の見える化を図ることにより、SDGsについての認知度向上を図り、SDGsの達成に資することをめざすため、この運営方針の各経営課題に、対応する主な「17のゴール」を記載しています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



経営課題1

主なSDGsゴール



人と人がつながり、城東区を誇りに思える コミュニティ豊かなまちに

ま

めざすべき将来像（概ね10～20年間を設定）

さまざまな活動主体が互いに連携して活動し、コミュニティが豊かになっている

現状・データ

H30 区民アンケート

[問1] 城東区は住みやすいまちと感じる区民 96.4%

[問2] 住みやすいと感じる理由（2つまで選択）



（同資料 3ページ掲載データ再掲）

[問3] 城東区に愛着を感じる 86.9%

[問4] 愛着を感じる主な理由



現状・データ

◆H30区民アンケート: あなたにとって住民同士の「つながり」や「きずな」があると感じますか。(単位: %)

問3		1. 感じる	2. ある程度感じる	3. あまり感じない	4. 感じない	無回答
全体		9.4	51.1	28.4	10.0	1.1
年代別	18～20歳代	2.4	31.0	40.5	26.2	0.0
	30歳代	1.8	50.9	36.4	10.9	0.0
	40歳代	11.3	50.0	26.3	12.5	0.0
	50歳代	6.8	41.1	41.1	9.6	1.4
	60歳以上	12.4	56.9	22.1	6.7	1.9

◆H30区民アンケート: 住民同士の「つながり」や「きずな」があると感じる主な理由をお選びください。(単位: %)

問4		1. 日頃からあいさつをする相手がいるから	2. 祭りなど地域イベントに参加しているから	3. ボランティア活動に参加しているから	4. 子育てや学校を通じて知り合いがいるから	5. サークルや習い事を通じて知り合いがいるから	6. ラインやフェイスブックなどのSNSで知り合いがいるから	7. その他	無回答
全体		67.6	8.3	1.9	8.0	3.2	0.6	1.9	8.3
年代別	18～20歳代	71.4	14.3	0.0	7.1	0.0	7.1	0.0	0.0
	30歳代	69.0	6.9	0.0	13.8	0.0	0.0	3.4	6.9
	40歳代	44.0	22.0	2.0	22.0	0.0	0.0	0.0	10.0
	50歳代	58.3	5.6	0.0	13.9	0.0	0.0	0.0	22.2
	60歳以上	71.4	6.8	2.6	2.1	5.2	0.5	3.1	8.3

・地域振興会(町会)への加入率 73.9% (平成30年1月現在)

分析

- ・住みやすいまちと感じる区民は多いが、その理由の大半は「交通や買物が便利」であり、「近くに親しい人がいる」は12.1%、「近所つきあいがよい」は4.2%と低い数値になっている。
- ・「つながり」「きずな」について、住民同士の「つながり」等があると感じる、ある程度感じると答えた方のうち、日頃からあいさつする相手がいるからと答えた方は、30歳代では70%近いが、40歳代は40%台に減っていることや、子育てや学校を通じて知り合いがいるからは30歳代では13.8%、40歳代では22.0%であるなど、年齢層や生活スタイルの状況によって違いが生じている。
- ・自らのまちは、自らでつくろうという方向性を持ち、さまざまな活動主体がまちづくり、音楽、スポーツなど幅広く活動を展開しているが、その活動に自らが参加し、つながりの輪を広げる事が出来ていない。子育て世代、若者の参加率が低い。

課題

- ・交通や買物に便利という理由だけでなく、地域コミュニティや都市魅力を理由としてまちに愛着を感じ、また、年齢を問わず、「つながり」「きずな」を感じるまちづくりへの取組が必要である。
- ・それぞれの事業について子育て世代、若者が参加しやすい、参加したくなる内容・環境を整備する必要がある。また、高齢化が進む中であって、若者から高齢者までが協働でおこなえる事業を展開することも必要である。

【戦略1-1】

ま

タテ・ヨコ・ナナメでつながるまちづくり

めざす成果（概ね3～5年間で設定）

《めざす状態》

- ・地域において様々な活動主体がタテ・ヨコ・ナナメ¹でつながり、コミュニティが豊かになり、地域特性に即した地域課題の解決に向けた取り組みが自律的に進められている状態。

《成果目標》

- ・住民同士の「つながり」や「きずな」があると感じる区民の割合（区民アンケート）
令和4年度 70%以上（平成30年度実績 60.5%）
- ・地域活動協議会²の構成団体が、地域特性に即した地域課題の解決に向けた取組が自律的に進められている状態にあると思う割合
令和5年度 90%以上（平成30年度実績 86.8%）

戦略

- ・各地域活動協議会の様々な活動内容について、広く区民に周知することにより、住民への活動の浸透と、各地域活動協議会が地域課題の解決やコミュニティづくりに寄与するなど、地域活動協議会が自律して活動できるよう支援する。
また、高齢化等により地域活動の担い手が不足していることから、新たな担い手確保に繋がるよう、地域の実情に応じた支援を行う。
- ・小学校等を拠点として取り組まれている生涯学習活動を支援し、それぞれの活動を通じて、「区民同士を結ぶお互いのつながりと思いやり」を育むことにより、地域コミュニティづくりを推進し、またスポーツを通じてこどもから高齢者までが交流できるよう事業を展開する。



用語解説

- 1 「タテ」の関係：第1層（※）で活動する団体とその連合組織である第2層・第3層で活動する団体間の関係

例：単位PTAと区PTA協議会の関係、振興町会と連合振興町会と区地域振興会の関係

「ヨコ」の関係：同じ層で活動する団体間の関係

例：自治会・町内会同士、地域活動協議会同士

「ナナメ」の関係：各層の活動単位を越えた団体間のつながり

例：自治会・町内会と区単位で活動する企業やNPOとのつながり

※第1層：自治会・町内会単位、第2層：校区等地域単位、第3層：区単位

- 2 「地域活動協議会」とは、おおむね小学校校区を範囲として、地域団体やNPO、企業など地域のまちづくりに関するいろいろな団体が集まり、話し合い、協力しながら、さまざまな分野における地域課題の解決やまちづくりに取り組んでいくための仕組みです。

具体的には、次のような点を備えたさまざまな活動主体の連合組織を、地域活動協議会として位置付けています。

ア おおむね小学校区域を単位として活動することを基本としていること

イ 地域住民の組織をはじめ、ボランティア団体、NPO、企業など地域のまちづくりに関するさまざまな活動主体が幅広く参画していること

ウ 民主的で開かれた組織運営と会計の透明性が確保されていること

エ 特定の分野ではなく、防犯・防災、子ども・青少年、福祉、健康、環境、文化・スポーツなど広く地域のまちづくり全般を活動対象としていること

平成30年12月1日現在、城東区では16地域において形成されています。



戦略1-1の具体的取組

【1-1-1 地域活動協議会に対する支援】

ま

- ① 区役所及び中間支援組織（まちづくりセンター）³による地域活動協議会に対する活動支援
- ② 各地域活動協議会の活動内容等の情報発信支援
 - ・SNS⁴やホームページを用いた情報発信の継続支援、及び他の広報媒体の作成支援
 - ・区広報誌等における地活協の意義、機能の情報発信や、活動紹介の継続
 - ・各地域活動協議会広報紙の区民情報コーナーへの配架など
 - ・転入者用情報提供パックによる町会加入啓発ビラの配布等により町会加入促進の機会を増やす

H30 決算額	56,640千円	R元 予算額	57,697千円	R2 予算額	58,072千円
------------	----------	-----------	----------	-----------	----------

予算の主な 増減理由	【地域活動協議会活動費補助金・運営費補助金】 ・支出内容、単価等の見直しによる増 【新たな地域コミュニティ支援事業】（まちづくりセンター） ・支出内容、単価等の見直しによる減
---------------	--

【業績目標】

地域活動協議会を知っている区民の割合 44%
（平成30年度実績 43.0%）
地域活動協議会の構成団体が、地域活動協議会に対し地域の実情やニーズに即した支援が実施されていると思う割合 85%
（平成30年度実績 84.7%）

【撤退・再構築基準】

前年度の実績を下回る場合は実施手法を再構築する。

【前年度までの実績】

平成31年度実績
・広報紙作成16地域
・複合施設1階「区民情報コーナー」への広報紙の配架
・区twitter、区ホームページによる情報発信（随時）
・区広報誌における活動紹介（毎月）
・転入者用情報提供パックを用いた町会加入啓発ビラの配布

【1-1-2 生涯学習及びスポーツ等を通じたコミュニティづくり】

ま

- ①生涯学習ルーム⁵の開催
- ②スポーツカーニバルの開催
- ③区民スポーツ大会の開催
- ④ミニマラソン・駅伝大会の開催

H30 決算額	5,244千円	R元 予算額	5,323千円	R2 予算額	5,795千円
------------	---------	-----------	---------	-----------	---------

予算の主な 増減理由	【生涯学習・生涯スポーツ等の活動を通じた地域コミュニティづくり事業】 ・支出内容、単価等の見直しによる増 【区民スポーツ・レクリエーション事業】 ・スポーツ大会用物品購入経費の増
---------------	--

【業績目標】

- ①受講者延べ人数 30,000人以上
- ②事業の参加延べ人数 1,200人以上
- ③事業の参加延べ人数 800人以上
- ④事業の参加延べ人数 400人以上

【撤退・再構築基準】

目標の80%に達しない場合は実施手法を再構築する。

【前年度までの実績】

平成30年度実績
①169講座/30,205名（ルーム・受講者延べ人数）
②事業参加のべ人数 1,822人
③事業参加のべ人数 1,336人
④事業参加のべ人数 602人



用語解説

³ 地域活動や課題解決に主体的に取り組む地域活動協議会の自律運営に向け支援を行う組織。
⁴ ソーシャル・ネットワークキング・サービスの略語で、インターネットを経由して他者とのコミュニケーションを行うためのツール。Twitter（ツイッター）やFacebook（フェイスブック）、LINE（ライン）、YouTube（ユーチューブ）、Instagram（インスタグラム）などがある。
⁵ 市民の日常生活にとって身近な施設である小学校を、「地域」における市民の生涯学習活動の拠点とし、地域住民への学習機会の提供と充実を図る事業。
市内の小学校の特別教室等を活用し、講習・講座を実施しており、運営については、地域住民を中心メンバーとして組織された「生涯学習ルーム運営委員会」が行っている。

【戦略1-2】

区民が生き生きと活躍している 魅力あるまちづくり

ま

めざす成果（概ね3～5年間で設定）

《めざす状態》

- ・多くの区民が一度は、音楽、花づくり、まちづくりのいずれかの事業に参加し、今後も参加したいと思っている状態。

《成果目標》

- ・区民アンケートにおいて、区で行う事業に参加したいと思う割合（区民アンケート⁶）
令和4年度 60%以上（平成30年度実績 55.0%）

戦略

- ・「城東区ゆめ～まち～未来会議」⁷や「アイラブ城北川実行委員会」⁸などのまちづくりの担い手と連携しながら、幅広い層の自主的活動が活性化するように支援する。
- ・すべての人が音楽や芸術にふれあえる機会の提供とこどもたちの音楽活動を支援する。
- ・「区民による緑化活動」を支援するとともに緑化活動を推進する人材育成をおこなう。



用語解説



⁶ 多様な意見やニーズを把握し、その結果を区の事業実施や事業改善に反映させ、区政運営のより一層の充実を図る目的で、住民基本台帳により無作為に抽出した区民を対象に実施しているアンケート調査。

⁷ 地域固有の特性や魅力を活かした将来のまちの姿を描き、この将来像の実現に向けて区民が互いに協力し合いながら、地域で取り組む活動の方向性を検討する「場」として、平成16年度に組織された。平成18年度からは策定した「城東区未来わがまちビジョン」の実現に向けて始動し、「城東区SARUGAKU祭」や「JOTO区ラシック」などの事業に主体的に取り組んでいる。

⁸ キャンドルナイトin城北川などの事業を通じて、城北川の魅力を発信している区民で構成する組織。

戦略1-2の具体的取組

【1-2-1 城東区ゆめ～まち～未来会議 ・アイラブ城北川実行委員会と協働したまちづくり】

ま

- ①こいのぼり大作戦やキャンドルナイト等、アイラブ城北川プロジェクトの推進
- ②「城東区未来わがまちビジョン」の実現に向けた城東区 SARUGAKU祭、JOTO区ラシック等の開催支援

H30 決算額	1,784千円	R元 予算額	1,655千円	R2 予算額	1,655千円
------------	---------	-----------	---------	-----------	---------

予算の主な 増減理由	【人と人をつなぐ 城東区の絆プロジェクト】 ・支出内容等の見直しによる減 【アイラブ城北川プロジェクト】 ・イベント用物品購入経費の増
---------------	--

【業績目標】
取組①の事業における参加者アンケートにおいて、城北川が「いつでも自由に憩い・集い・楽しいと感じる親水エリア」になっていると感じる区民の割合70%以上

【撤退・再構築基準】
50%に満たない場合は再構築

【前年度までの実績】
平成30年度実績
①城東区SARUGAKU祭、JOTOクラシック等の開催支援
②キャンドルナイトin城北川等の開催
・参加者アンケートで「次回も参加したい」と感じる区民の割合 90.78%

【1-2-2 音楽にあふれるまちづくり】

ま

- ①吹奏楽フェスティバル、ロビーコンサート、音楽の祭日の実施
- ②JOTO合唱祭等の開催支援
- ③中学校吹奏楽部への練習会場支援

H30 決算額	1,587千円	R元 予算額	1,410千円	R2 予算額	1,424千円
------------	---------	-----------	---------	-----------	---------

予算の主な 増減理由	【芸術文化の薫るまちづくり】 ・支出内容、単価等の見直しによる増
---------------	-------------------------------------

【業績目標】
取組①の事業における参加者アンケートにおいて、各事業が「潤いのあるまちづくり」に有効であると感じる区民の割合80%以上

【撤退・再構築基準】
60%に満たない場合は再構築

【前年度までの実績】
平成30年度実績
・取組①～②における事業参加者数 4,069人

【1-2-3 花と緑と人を育むまちづくり】

ま

- ・緑化リーダー育成講習会の実施
- ・種から育てる花づくり事業等の支援

H30 決算額	807千円	R元 予算額	888千円	R2 予算額	893千円
------------	-------	-----------	-------	-----------	-------

予算の主な 増減理由	【区民が主体の「花と緑のまちづくり」事業】 ・支出内容、単価等の見直しによる増
---------------	--

【業績目標】
年間緑化ボランティア従事延べ人数 6,000人以上

【撤退・再構築基準】
年間緑化ボランティア従事延べ人数が3,000人未満の場合、事業を再構築する。

【前年度までの実績】
平成30年度実績
・年間緑化ボランティア従事のべ人数 6,418人

経営課題2

主なSDGsゴール



地域で支えあう安全で安心なまちに

ま

めざすべき将来像（概ね10～20年間で設定）

- ・災害に対する備えが充実している
- ・住民同士が助けあう体制が整っている
- ・区民が安全で、安心に暮らせる



各経営課題・戦略・具体的取組について、区政会議の所管部会を下記の記号で表しています。

地域福祉部会 **福** こども・教育部会 **こ** まちづくり部会 **ま**

現状・データ

- ・城東区は、旧大和川流域に属する市内東部の低湿地帯に属し、標高は1～2mと区域全般に低く平坦であり、東西、南北に河川が流れ大雨による浸水被害を受けやすい地理条件にある。
- ・マグニチュード9クラスの南海トラフ巨大地震が発生した場合、城東区内では最大震度6弱が想定されており、あわせて津波浸水被害があるとされている。
- ・犯罪の発生状況については、総件数は減少をしており、特に「ひったくり」は大幅に減少しているが、「車上狙い」や「部品盗」「自転車盗」は減少はしているものの数多く発生している。また、女性や子どもを狙った犯罪も少なからず発生している。

◆H30区民アンケート：自主的な防災活動に参加したことがある区民の割合（単位：%）

問8		1. 参加したことがある	2. 活動は知っていたが、参加したことがない	3. 活動していることを知らなかった	無回答
全体		26.6	45.6	26.6	1.1
年代別	18～20歳代	9.5	47.6	42.9	0.0
	30歳代	9.1	52.7	38.2	0.0
	40歳代	33.8	38.8	26.3	1.3
	50歳代	26.0	46.6	27.4	0.0
	60歳以上	31.1	45.7	21.3	1.9

◆H29区民アンケート：参加したいと思う取組（現在参加している方もお答えください）（複数回答）（単位：%）

問9	1. 子ども見守り活動	2. 歳末時などの夜警	3. 青色防犯パトロール	4. 各種防犯キャンペーン	5. こども110番の家	6. 参加したくない	無回答
全体	24.6	16.0	4.7	10.5	11.1	38.9	9.7
年代別	18～20歳代	9.5	7.1	2.4	9.5	69.0	0.0
	30歳代	29.6	6.2	3.7	18.5	37.0	2.5
	40歳代	36.5	13.5	2.9	10.6	34.6	4.8
	50歳代	12.8	18.1	7.4	9.6	50.0	7.4
	60歳以上	25.3	19.9	5.1	8.7	33.7	15.4

分析

- ・区民アンケートで、地域の防災訓練などの防災活動に参加したことがあるか聞いたところ、「活動は知っていたが参加したことがない」が最も多く45.6%、「参加したことがある」「活動していることを知らなかった」が同率で26.6%となっている。その中で、「参加したことがある」は30歳代が9.1%と最も低く、「活動していることを知らなかった」は18～20歳代が42.9%で最も高いなど、若年層は40歳代以上に比べて、参加率、認知度が低い傾向を示している。

要因としては、近年、区内では大規模マンション等が数多く建設されたことにより、マンション等に居住している世帯の割合が6階建て以上では5割を11階建て以上では3割を超えている状況にあり、マンション等に居住している若年層の住民と地域団体との関係が希薄になってきていることや、地域で防災訓練等を開催する際の周知不足などが考えられる。

- ・あなたのお住いのまちが安全で安心だと感じますかに対しては、感じない(感じない、あまり感じないの合計)と回答した方は15.7%となっている。

- 地域の防犯活動のうち参加したいと思うもの(複数回答あり)を聞いたところ、参加したくないが38.9%で最も高く、2番目が子ども見守り活動で24.6%、次に歳末夜警などが16.0%、青色防犯パトロールが4.7%と最も低い状況にある。

課題

- 災害発生直後は、地域の自主防災組織による安否確認や救出・救助等の「共助」の取組みが重要であるが、組織構成員の高齢化が進んでいる。
- 城東区内においても住民の高齢化が進んでおり、地域で実施する防災訓練への参加者も高齢者の方が多く、若年層の参加促進や災害発生時の避難行動要支援者（高齢者や障がい者等）に対する取組が重要になっている。
- 街頭犯罪件数については、全体の件数は減少しており、特に「ひったくり」について効果が上がっているものの、「車上狙い」「部品狙い」「自転車盗」については件数が多いことから、引き続き街頭犯罪の抑止に向けた取り組みが必要である。

【戦略2-1】

自助・共助を基本とした災害に強いまちづくり

ま

めざす成果（概ね3～5年間を設定）

《めざす状態》

- ・住民各自が日頃から災害に対する備えを行い、災害が発生しても、避難行動要支援者⁹（高齢者や障がい者等）を含めた地域の住民同士が助け合い、安全な環境で避難所を開設・運営できる状態

《成果目標》

- ・地域が防災活動に取り組んでいると思う区民の割合（区民アンケート）
令和4年度 70%以上（平成30年度実績 66.6%）

戦略

- ・災害に強いまちをめざして、地域ごとの防災計画の策定や防災マップの作成支援を行うとともに、区防災拠点を活用した区防災訓練、地域で開催する避難所開設訓練、図上訓練等、各種防災訓練の充実を図る。
- ・子育て世代向けやマンション住民向けの防災出前講座を開催し、幅広い層の住民に自助・共助や地域における人と人のつながりの重要性など防災意識の向上に努める。
- ・避難行動要支援者⁹（高齢者や障がい者等）を対象に、地域との情報共有を進める。



用語解説

⁹ 要配慮者（高齢者、障がい者、乳幼児、妊産婦、児童、傷病者、外国人など、特に配慮を要する者）のうち、自ら避難することが困難な者であって、その円滑かつ迅速な避難の確保を図るため特に支援を要する者を避難行動要支援者といい、次のような状態の人々が該当します。

- ・移動が困難な人
- ・日常生活上介助が必要な人
- ・情報を入手したり、発信したりすることが困難な人
- ・急激な状況の変化に対応が困難な人
- ・薬や医療装置が常に必要な人
- ・精神的に著しく不安定な状態を来す人
- ・言語、文化、生活習慣への配慮が必要な人

戦略2-1の具体的取組

【2-1-1 防災力の向上】

- ① 地域ごとの防災計画および防災マップの作成支援
- ② 区防災訓練の充実
 - ・ 中学校の生徒参加など学校や医療機関と連携した防災訓練の開催
- ③ 地域における防災訓練の開催支援
 - ・ 避難訓練をはじめとする各地域の防災訓練の充実
 - ・ 小学校の児童参加など学校や医療機関と連携した防災訓練の開催
- ④ 防災出前講座の開催
- ⑤ 備蓄物資の増強など避難所の機能強化

ま

【業績目標】

自主的な防災活動に参加したことがあると回答した区民の割合30%以上（区民アンケート）

【撤退・再構築基準】

前年度実績を下回った場合、手法を再構築する。

【前年度までの実績】

平成30年度実績
自主的な防災活動に参加したことがあると回答した区民の割合26.6%（区民アンケート）

平成29年度実績
自主的な防災活動に参加したことがあると回答した区民の割合25.3%（区民アンケート）

H30 決算額	7,902千円	R元 予算額	8,841千円	R2 予算額	25,327千円
------------	---------	-----------	---------	-----------	----------

予算の主な増減理由	【地域防災対策事業】 ・ 避難所対策の充実による増
-----------	------------------------------

【2-1-2 避難行動要支援者情報の共有】

- ・ 要援護者情報の整備

ま

福

〔「4-1-2 地域における要援護者の見守りネットワーク強化事業」の一部を再掲〕

【業績目標】

対象者の90%以上の名簿整備を行う。

【撤退・再構築基準】

上記目標が70%に達しない場合、実施方法を再構築する。

【前年度までの実績】

平成30年度実績
・ 高齢者、障がい者、難病患者の名簿整備
・ 対象者の名簿整備：85.61%

H30 決算額	28,331千円	R元 予算額	28,102千円	R2 予算額	28,245千円
------------	----------	-----------	----------	-----------	----------

予算の主な増減理由	【地域における要援護者の見守りネットワーク強化事業】 ・ 支出内容、単価等の見直しによる減
-----------	--



【戦略2-2】

犯罪の少ない安全で安心なまちづくり

ま

めざす成果（概ね3～5年間を設定）

《めざす状態》

- ・地域防犯活動に多くの住民が参加し、地域における防犯力を向上させることで、住んでいるまちが安全で安心だと感じて暮らすことができる状態

《成果目標》

- ・住んでいるまちが安全・安心だと感じる区民の割合（区民アンケート）
令和4年度 85%以上（平成30年度実績 83.1%）

戦略

- ・犯罪の少ない安全で安心なまちづくりをめざして、地域および警察署と協働・連携して、車上ねらい、部品盗、自転車盗などの減少に向け啓発を強化する。
- ・子ども110番の家¹⁰や、子ども見守り活動等を積極的に支援し、地域における防犯力の向上を図る。
- ・防犯カメラの設置を行い、犯罪抑止力の向上を図る。
- ・交通安全意識の向上を高める啓発活動を行う。



用語解説

¹⁰ 子どもたちが不審者に追いかけられるなどのトラブルに巻き込まれそうになった時に、大人に助けを求めやすい環境を作るために、助けを求めることができる「子ども110ばんの家（商店・事業所を含む）」であることの、目印となる旗などを掲げていただく協力家庭・商店・事業所の確保を進める事業。



戦略2-2の具体的取組

【2-2-1 地域コミュニティによる防犯力の向上】

ま

- ① 発生件数の多い、車上狙い、部品盗、自転車盗、ひったくりなどの減少に向けた啓発の強化
- ② 子ども110番の家や子ども見守り活動等への積極的な支援

H30 決算額	1,641千円	R元 予算額	874千円	R2 予算額	972千円
------------	---------	-----------	-------	-----------	-------

予算の主な 増減理由	【地域安全防犯対策事業】 ・啓発物品の充実による増
---------------	------------------------------

【業績目標】

防犯啓発活動が、犯罪の発生抑止につながっていると感じている区民割合 80%（区民アンケート）

【撤退・再構築基準】

前年度実績を下回った場合、手法を再構築する。

【前年度までの実績】

平成30年度実績
防犯啓発活動が、犯罪の発生抑止につながっていると感じている区民割合 68.8%（区民アンケート）

【2-2-2 犯罪抑止力等の向上】

ま

- ① 防犯カメラの設置および適正管理
- ② 区内小学生に対する防犯ブザーの配布
- ③ 青色防犯パトロールカーによる区内巡視
- ④ 区内保育所等の野外活動等の見守り支援(随時)
- ⑤ 特殊詐欺被害防止の啓発
- ⑥ 小学校の朝会で注意喚起等の交通安全の啓発活動

H30 決算額	6,052千円	R元 予算額	4,464千円	R2 予算額	5,120千円
------------	---------	-----------	---------	-----------	---------

予算の主な 増減理由	【地域安全防犯対策事業】 ・防犯カメラ設置・管理にかかる経費の減 ・自転車安全走行啓発に向けての調査経費の増
---------------	--

【業績目標】

ひったくり、路上強盗、オートバイ盗、車上ねらい、部品ねらい、自動車盗、自転車盗の区発生件数が1,148件以下(平成30年度より過去5年の平均件数)

【撤退・再構築基準】

過去5年の最多年度の区発生件数（1,349件）を上回る場合、事業を再構築する。

【前年度までの実績】

- ①防犯カメラ
118台設置（25～31年度）
- ②防犯ブザー
平成26年度より区内の市立小
学校の児童全員に配布
- ③青色防犯パトロールは、原則、
平日の昼間は毎日。歳末夜間パ
トロール5回（30年度）
- ④区内保育所等の野外活動等の
見守り支援(随時)
- ⑤年金支払月に特殊詐欺被害防
止の啓発実施
- ⑥小学生への啓発活動（随時）

各経営課題・戦略・具体的取組について、区政会議の所管部会
を下記の記号で表しています。

地域福祉部会 **福**

こども・教育部会 **こ**

まちづくり部会 **ま**